

研究主題 図書室の情報センター化

—— 利用の活発をめざして ——

1 パソコンの利用状況（昼休み）

昼休みの図書の貸し出し時間に行くと、図書室内に利用できるノート型パソコンがあることは、すっかり定着している。現在の図書室の利用状況を多い順にあげると、

- ① 一般の図書を借りる（読む）
- ② パソコンで情報を検索する
- ③ 図書室内でのみ閲覧できる学習用漫画本を読む

※図書の貸し出しも、パソコンによる検索も、3年前と比べればだいぶ利用は定着してきた。図書委員会が発行する「図書だより」による新着図書や、話題になっている本の紹介も、生徒の利用に効果をあげている。課題として、昼休みの貸し出し時間が20分しか取れないことが挙げられる。放課後は、部活動がさかんで、図書室の貸し出しの時間をどう設定していくかも課題である。



2 授業での図書室の利用

教科「日本語」や総合的な学習の時間、国語の授業などで次第に図書室の利用が活発になってきた。パソコン教室よりパソコンの台数が多くはないが、図書室にはもともと大きなスクリーンがあり、パソコンと一緒に図書の利用も同時にできる強みがあるので、今後も、様々な形態で利用が考えられる。

- ① パソコンと本で同時に情報を検索する授業（場合によって、パソコンを班ごとに割り当てたり、個人での利用時間を10分程度に制限したりする必要性が考えられる。）
- ② 授業の最初の場面で、一斉に大きなスクリーンでこれから授業の展開にかかる動機付けや問題提起を行い、その後に学習が展開される授業
- ③ 個別の学習が展開された後で、いくつかの個別の学習の成果を大きなスクリーンで見る授業（または次の授業への展開に備えて、資料をスクリーンに提示する。）

図書室で授業を行ったとき、授業内で図書の貸し出し（学級の図書委員が担当する）を行うことが可能である。これからはそういう取り組みも積極的に取り組んでいきたい。

3 放課後の図書室の利用

従来から生徒会の委員会活動として、保健委員会などが調べ学習や広報活動を行っている。今後は委員会活動に加えて、部活動の利用も考えられる。担当する先生やボランティアの方の指導のもとで、図書の貸し出しも行えるようにしていきたい。